

菊池市中心市街地の地域活動の変遷に関する一考察

熊本大学 学生会員 ○吉永敦音 熊本大学 正会員 田中尚人

1. はじめに

(1) 研究の背景・目的

近年地方都市では、人口減少や高齢化から地域活動への参加頻度が低下し、地域活動を支えてきた組織が縮小、解散するなど地域のつながりが希薄化している。その中で菊池市では、地域おこし協力隊を積極的に導入し、総務省のモデル事業として域学連携事業を実施するなど地域住民と行政の協働の場が数多くある。

本研究では文献資料に基づき限府の都市構造の変遷を整理し、地域活動主体へのインタビュー調査や関連政策などを踏まえて考察することで、中心市街地の地域活動の特徴とその変化のプロセスを明らかにすることを目的とする。

(2) 研究概要

菊池市中心市街地である限府は①將軍木や能場など歴史の中心である「御所通り」②商店街が形成されている「中央通り」を中心に形成されている。これらの通りに着目し、ヒアリング調査と文献資料調査を行い、都市構造を基盤とした地域活動の比較と考察を行う。

2. 菊池市の地域活動の関連政策の変遷

菊池市の地域活動に関連する政策を整理した。まず、その基盤となる総合計画の変遷を整理し、地域活動の関連政策の変遷を整理した（表-1 参照）。

(1) 菊池市の総合計画の変遷

1969年に地方自治法が改正されると市の将来を展望した長期的な基本構想を策定することとなり、1971年に旧菊池市総合計画が策定された。その後、将来の都市像を「花と緑と清流の町」とする第四次総合計画が策定されるなど社会変化に対応してきた。2005年の市町村合併を機に2006年に「豊かな水と緑、光あふれる田園文化の町」を基本方針とした第一次菊池市総合計画が策定された。その後2015年から「自然の恵みを守り、自然を活かして穏やかな発展を続けていく安心・安全の『癒しの里』きくち」を将来像とする第二次菊池市総合計画が策定された。

(2) 地域活動の関連政策の変遷

旧総合計画期ではコミュニティ活動やボランティア活動の支援を中心に行われていた。その後、地域づくり活動の支援を重点政策とし、菊池市第一次総合計画から菊池市第二次総合計画前期にかけて団体の育成・活動支援に加え、団体間の連携の支援が行われるようになった。

表-1 地域活動の関連政策

総合計画	事業内容
旧総合計画①② (1971年～1990年)	・老人クラブの育成と助成 ・コミュニティ活動の推進 ・ボランティア活動の推進
旧総合計画③④ (1991年～2004年)	・コミュニティ活動の推進 ・NPOやボランティアの育成強化 ・産・学・行政の連携
第一次総合計画 (2005年～2014年)	・地域づくり活動に取り組む地域への支援策として交付 ・地域おこし協力隊の活用 ・域学連携事業の推進
第二次総合計画前期 (2015年～2017年)	・地域づくりを推進するための中心となるリーダーの育成 ・地域おこし協力隊制度を活用 ・「域学連携」事業で地域振興、人材育成などの取り組み ・行政区や地域づくり団体などを育成し、その活動を支援 ・NPO法人やボランティア団体などとの連携を推進

3. 限府の都市構造の変遷

限府の昭和期から、平成期の都市構造の変遷を整理した。平面図を用いて限府の都市空間の変遷を整理し、景観写真を用いて各通りの生活空間の読み解いた。

(1) 都市空間の変遷

1961年に都市計画道路網が決定し事業が着手され、1970年代には菊池市においても自家用車が急激に普及している。それに対応するように道路の改良工事が行われた。1972年には現在の国道387号線にあたる都市計画道路正観寺東原線（第一バイパス）が開通し1983年に大琳寺木庭橋線（第二バイパス）が開通した、また、昭和から平成にかけて菊池中学校が無くなり、温泉通り線が開通した。その結果、図-1に示した通り道路が直線化され、商店街と温泉街が分断された。また、御所通り-商店街間で小道が増加し、役場など行政機関が移動した。さらに生活用水路、排水路としての機能がある井手が無くなっている。御所通りの將軍木や能場と中央通りの寺はどちらにも存在する。



図-1 現在の都市空間

(2) 生活空間の変遷

景観写真と文献資料を用いて御所通りと中央通りの生活空間の変遷を読み解いた。図-2 と図-4 は戦後まもなくの通りの様子であり、図-3 と図-5 に現在の通りの空間を示した。



図-2 昭和 30 年の御所通り



図-3 現在の御所通り



図-4 昭和 20 年代の中央通り



図-5 現在の中央通り

①御所通りの生活空間の変遷

昭和初期は砂利道で家屋はわら屋根が主流だった。昭和 30 年代は看板を載せた車が通ることもあり、蔵作りの家屋が連なり様々な商売を行っていた。また、子供相撲などの行事が御所通りの各地で行われていた。現在は將軍木、能場などの文化遺産や白漆喰壁の建物

など歴史的な建築物が点在する。居住人口が減り、空き店舗や空き地が増え、人通りが少なくなっている。

②中央通りの生活空間の変遷

昭和 30 年頃までは車の往来は少なく、道路中央で遊ぶ子供が多かった。大きなアーチ状の看板があり、劇場や市場などがあった。限府町役場が移転した昭和 40 年頃から、機能が変わっていった。また、昭和 50 年頃までは、築地井手と生活が密接に関わっていた。現在は直線的な通り沿いに低層の建物が立ち並ぶが、閉店した商店等が多く、シャッター通り化している。

4. 地域活動の変遷に関する考察

地域活動主体へのインタビュー調査を行った。通りごとの地域活動の変遷を整理し、その特徴を考察した。

(1)限府における地域活動の整理

限府における地域活動の主体を、町内会などの地縁型組織と NPO などのテーマ型組織に分類(表-2)し、インタビュー調査を行った。

(2)限府における地域活動の変遷

関連制度と都市構造との関係性を考察し、通りごとの地域活動の変遷を整理した。さらに御所通りと中央通りのそれぞれの地域活動の特徴を考察した。

5. おわりに

4 章までで考察した通りごとの地域活動の特徴を比較し、限府全体の地域活動の現状について考察した。その内容を講演会にて発表する予定である。

[参考文献]

- 1) 菊池市：菊池市史 下巻，菊池市，1986。
- 2) 菊池市文化資源活用地域づくり委員会：菊池市「記憶の記録・伝承事業」報告書，菊池市文化資源活用地域づくり委員会，2015。
- 3) 菊池市商工会：菊池市商工会設立 45 周年記念誌，商工会，2005。

表-2 限府の地域活動

	地縁型組織		テーマ型組織	
	組織名	活動内容	組織名	活動内容
御所通り	上町老人会	御所通りの月一度の清掃活動を継続しており、数々の表彰を受ける。限府地区老人会などもある。	松倉邸NPO法人 まちづくり千年の風	中心市街地の観光・まちづくりや故郷の掘り起こし事業などを行う。また、中心市街地での事業に対して管理や仲介などを行う。現在は松倉邸の管理運営を行う。
	婦人会	お伊勢さんや御所通りの清掃活動を行っていたが平成14年ごろに無くなった。	菊池養生詩塾	中心市街地の商・農・工・観等の異種業の連携を深め、まちづくりの関心を促す仕掛け作りを行う。また、軽トラ朝市協力活動や他地域との交流を行う。
	御所通り 景観形成協議会	統一のとれた町並みとするため、まちづくり協定や街並み協定を結び、建物の外観・色・材料・壁面位置などの基準を設ける。看板・街灯・花壇等のデザインの再考も行う。		
中央通り	菊池市商工会	商工業の総合的改善発達を図るとともに、社会一般の福祉の増進に資することを目的としている。商工業者の経営支援や地域の活性化を図るため経営改善普及事業と地域総合振興事業を行う。	特定非営利活動 法人きくち桜会	社会教育・まちづくりの推進活動や観光・地域安全活動を行う。また、コミュニティスペースよこい処の運営を行う。